

道徳科 学習指導案

日 時 平成17年9月27日(火) 5校時
学 級 1年4組(男子19名 女子17名 計36名)
場 所 1年4組教室
授業者 川村 門夢

1 主題名 広い心 (3-(3)人間の強さと気高さ、生きる喜び)

2 資料名 二度と通らない旅人 (東京書籍 明日をひらく1)

3 主題について

(1) 主題観

学習指導要領第2章道徳の内容の3「主として自然や崇高なもののかかわりに関すること」の(3)に「人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きることに喜びを見出すように努める。」とある。これは、人間の弱さや醜さを克服し生きる喜びを見出そうとする内容項目である。

私たち人間は自分のなかに弱さを持っているが、それを乗り越え次に向かっていくところにすばらしさがある。様々な誘惑に負け、楽なほうへと流れることがあり、弱い自分の存在を強く意識するようになる。しかしながら、人は誰もが持つ良心によって悩み、苦しみ、自分の良心の責めと戦いながら生きている。そして人間として生きることへの喜びや人間の行為のすばらしさに気づいたとき、人間は強く、気高い存在となる。その上で自分だけが弱いのではないということ、人間が持つ強さや気高さを十分に理解できるようにすることが大切である。

この時期の中学生は、人間が内に弱さや醜さを持つと同時に、強さや気高さを併せて持っていることを理解できるようになってくる。しかし、なかなか自分に自信がもてないだけでなく、劣等感にさいなまれたり、人をねたみ、恨み、うらやましく思ったりすることもある。一方で、強く、誇りを持った人生を送りたいと思う心もある。したがってこのような時期にこそ内なる自分に恥じない、夢や希望など喜びのある生き方を見出すことが大切であると考え、本主題を設定した。

(2) 生徒の実態

いつも明るく元気な生徒が多く、常に楽しい雰囲気を持つ学級である。話し合い活動では男子は意見を進んで素直に述べる生徒が多い反面、幼く、自己中心的な考えも見られる。女子は積極的な発言は少ないが、周りの気持ちを考え、行動する生徒が多い。また学級内で孤立し友人からサポートも得られていないと感じている生徒や、クラスのみんなに認められていないと感じている生徒がいる。

教師がそれらの生徒に積極的な関わりを持つと共に、それぞれの本音を引き出すことが大切である。人間の持つ弱さ醜さを素直に受け止め、それを乗り越えていく人間の強さと気高さを感じ取らせたい。

(3) 資料について

中学生のこの時期は、周囲の目を気にしすぎたり、偏った自己主張も出やすい時期である。自己主張はよくするが相手の立場や気持ちを素直に受け入れたり、自分の過ちを謙虚に反省し、よりよい自分を形成していこうとする心に不十分さがあると思われる。青年前期の特徴である自我意識に目覚めるこの時期に、旅人の行為を通して、家族の気持ちを探りながら、人間の気高い無償の行為、強く、誇りを持った生き方の大切さを感じ取らせる上で適切な資料である。

4 本時の計画

(1) ねらい

人間には弱さ醜さとともに、それを克服する気高さがあることを自覚し、過ちを改めてよりよく生きようとする心情を養う。

(2) 指導の構想

導入では、父親の考え方や心情の変化に着目するよう読みの視点を与えて、教師による範読を行なう。展開ではまず旅人を家に入れられない、水をあげられない理由をおさえ、父親の行為について共感的に捉えさせ、誰もが持っている人間の醜さに気づかせる。次に娘が回復した後の家族の人々の考え方や生活態度の変化について考えさせることを通してねらいに迫る足がかりにする。さらに、家族の人々がした行為を恥ずかしく思った理由を考えさせて、過ちを改めることを気づかせたい。終末は、ねらいに関わる経験談でまとめる。

(3) 評価の観点

人間には弱さや醜さとともに、それを克服する強さや気高さがあることを自覚し、過ちを改めてよりよく生きようと考えることができたか。

(4) 展 開

	教師の働きかけ	予想される生徒の反応	指導上の留意事項
導入 10分	(1)教師が範読する。 (2)感想を聞く。		
展開	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">学習課題 父親や旅人の行動などから自分を見直そう</p> <p>(3)資料を読んで話し合う。 内容を確認する。 父親や息子が旅人を家に入れなかったのは、どんな考え方からか。</p> <p>父親が一杯の水さえあげなかったのはどうしてだろう。</p> <p>回復した娘をみて家族はどんなことを考えただろう。</p> <p>今日の学習で学んだこと、思ったことを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家のものを守るため。 ・素性の分からないものを入れるわけにはいかない。 ・娘が病気だから。 ・娘の世話だけでも大変なので、他人を家に入れたくなかった。 ・旅人がもしかしたら悪人かもしれないと思った。 ・娘は水を飲めば死ぬほど悪い状態だったから。 ・娘が水をほしがっているので、水音も立てないようにしていたら。 ・心にゆとりがなかったから。 <家族の考え> ・自分たちは薄情であった。 ・娘を助けてもらい感謝の気持ちでいっぱい。 ・困っている人や苦しんでいる人に対して、思いやりの心で接するようになった。 ・旅人がいつか訪ねてきたらできるだけの親切をしようとしている。 <変わった理由> ・旅人にひどい仕打ちをしてしまったことへの反省から。 ・娘を救ってもらった感謝の気持ちから。 ・相手のために何もしてあげられなかったから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・父親は家族のことを考え警戒心を持っていることに気づかせる。 ・父親の苦悩に気づかせる。 ・旅人に行なった仕打ちに対する自分たちの強い反省から、自分たちを深く見つめなおし、人間としての生き方を捉えさせたい。
35分			
終結 5分	(4)教師の説話を聞く。	・教師の話を書く。	・生徒にわかりやすく話をする。